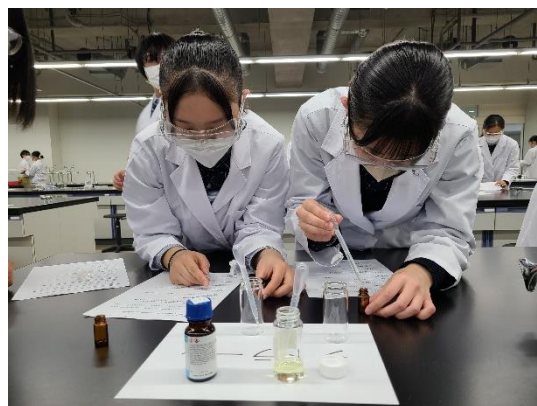


○横浜薬科大学 鰐淵清史准教授による「においの科学」体験実習の様子と生徒の感想



(左) 講義の様子 (スライドにて、各薬品の配合比率をご説明いただきました)

(右) 体験実習の様子

☆生徒から横浜薬科大学の方へのお礼と感想

1年 N.Kさん

本日はありがとうございました。

実際に大学へ足を運んでの実験は、とても貴重な経験になりました。実験では、ミントやバニラなどの馴染み深い香りだけではなく、マスクの上からでも感じるくらい強い匂いや鼻に残りやすい匂い、鼻を近づけても感じにくい匂いなど、様々な「におい」を嗅ぎました。友人同士で同じ匂いを嗅いでも、香りに対する認識の違いや好き嫌いなどで感じ方が異なり、とても興味深かったです。「人によって感じ方が違う」ということを身をもって実感しました。最後の実習では、自分の作りたい匂いを調合してオリジナルのアロマを作りました。それぞれの材料を調合する配分が難しく、期待していた匂いとは異なるものになってしまいましたが、楽しんで実験を行うことができました。

2年 H.Sさん

「におい」が私たちの生活の中でどのように作用しているのかを、丁寧に分かりやすく説明していただいたので理解できました。コロナ禍の学校生活では授業にも制限があり、あまり実験を行うことができませんでした。今回の体験実習では、実際に手を動かしたり薬品の匂いを嗅いだりできたので、今後の自分にとって糧となるような良い経験でした。また、実験で使用した駒込ピペットで0.5mLを計る際に目盛りの読み方が分からなかったため、確認し直そうと思いました。

体験実習に参加して、高校化学では学べないような専門的な内容を扱えるこのような機会は、今後の進路を決める上でとても貴重だと感じました。2年生に進級してからも引き続き、自分の興味のある分野についても探究しようと思いました。

1年 I.Kさん

講義の中で、2007年にイグノーベル賞を受賞した、牛の排泄物からバニラの香りがする「バニリン」を抽出する研究についてのお話を聞いてとても衝撃を受けました。実際にバニリンの匂いを嗅いだ時、牛の排泄物からこんなにいい匂いの成分が抽出できるのかと、本当に驚きました。また、「人は記憶を匂いと結びつけて、より鮮明なものにしていく」と伺い、祖母の家や雨の日のような何気ない匂いを嗅ぐと懐かしい思い出が蘇ることを思い出しました。匂いと記憶の密接な繋がりについて、興味深く感じました。

最後の実習では、シトラスの香りのアロマオイルを作りました。「シトラス」という物質ではなく、3~4種類程度の全く異なる薬品を比率に気をつけて調合していくことがとても楽しくて、面白い実験でした。香水も同じように作られているのだと分かり感激しました。